

インマヌエル中目黒キリスト教会

2009年7月5日

ピリピ書連講⑤

「生きる幸せと死ぬ幸せと」

ピリピ人への手紙 1章19-26節

竿代照夫牧師



聖書朗読

新約聖書

ピリピ人への手紙 1章 19節- 26節

19 というわけは、
あなたがたの祈りと
イエス・キリストの御霊の
助けによって、
このことが私の救いと
なることを
私は知っているからです。

20 それは私の切なる祈りと願いに
かなっています。
すなわち、
どんな場合にも恥じることなく、
いつものように今も
大胆に語って、
生きるにも死ぬにも、
私の身によって、
キリストがあがめられる
ことです。

21 私にとっては、
生きることはキリスト、
死ぬこともまた益です。

22 しかし、
もしこの肉体のいのちが
続くとしたら、
私の働きが
豊かな実を結ぶことになるので、
どちらを選んだらよいのか、
私にはわかりません。

23 私は、

その二つのものの間に
板ばさみとなっています。

私の願いは、

世を去ってキリストとともに
いることです。

実はそのほうが、

はるかにまさっています。

24 しかし、

この肉体にとどまることが、
あなたがたのためには、
もっと必要です。

25 私はこのことを

確信していますから、
あなたがたの信仰の進歩と
喜びとのために、
私が生きながらえて、
あなたがたすべてと
いっしょにいるようになること
を知っています。

26 そうなれば、

私はもう一度

あなたがたのところに

行けるので、

私のことに関する

あなたがたの誇りは、

キリスト・イエスにあって

増し加わるでしょう。

説教

ピリピ書連講⑤

「生きる幸せと死ぬ幸せと」

ピリピ人への手紙 1章 19節— 26節

竿代照夫牧師

主テキスト：

「私にとっては、
生きることはキリスト、
死ぬこともまた益です。」

(ピリピ1:21)

先週：

「キリストの拡大鏡」である

パウロ(20節)

今週：命であるキリスト(21節)

1. キリストがいのち (21節)

- 個人的な証し：
「私にとっては」
- キリストが命であり、すべて
- 死も有益：
キリストのために死に、
キリストの近くに迎えられる
- 日本人の死生観との比較

2. 幸せな「板挟み」 (22節－23節 a)

- 「板挟み」の意味：
「両側からしっかりと
驚つかみされる」
- 幸いな板挟み：
生きる幸いと死ぬ幸い
との板挟み
- 私達の「板挟み」とは？

3. 死ぬ幸せ(23節b)

- 死ぬ幸せ：
キリストと相見える
(1コリント**13**：**12**)
- 遥かに勝る望み

4. 生きる幸せ(24ー26節)

- ・ 生きる必要：
　　ピリピの信徒の信仰の成長
- ・ 釈放の希望：
　　釈放と再会を望む

終わりに

- 「何が起きても幸せ」と
言い切れる積極的信仰を！